



あい
愛
をこめて

バナッサはだれにふくろをわたすことができるでしょうか。

ルーシー・スティーブソン・イーウェル
(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

このお話はニカラグアでの出来事です。

バナッサはママにさようならをし、教会の建物に入って行きました。友達の何人かはすでに来ていました。バナッサは初等協会の活動が大好きでした。

フォンセカ姉妹は工作用のテーブルをじゅんびしていました。

リボンや色のついたひも、シールがありました。自分たちが何を作るかが分かるのを、バナッサは待ち切れませんでした。

おいりの後、フォンセカ姉妹はいくつかの指示を出しました。「今日はおくり物用のふくろを作ります。大切な人にわたすことができます。」フォンセカ姉妹は茶色の紙袋を子供たちひとりひとりに手渡しました。

バナッサはかざりつけを始めるのが楽しみでした。黄色い

ハートのシールを選び、ふくろの前側にはりました。

次に、バナッサは紙を折ってカードを作りました。「あなたは神の子です」と書きました。バナッサはたくさんの星とハートをえがきました。

ロベス姉妹は中に入れるクッキーとカップケーキを配りました。バナッサはカードも中に入れました。かんぺき!

間もなく、ママがむかえにきました。「見て!」バナッサはふくろを持ち上げて、ママが見えるようにしました。「だれか特別な人にあげるのよ。」

「すてきね!」ママが言いました。「だれにあげるの?」

「分からない」と、バナッサは言いました。「愛を必要としている人にわたしたいの。」そこでバナッサはあることを思いつきました。「わたし人を見つけるために散歩に行ってもいい?」

「もちろん」と、ママは言いました。「行こう!」

バナッサはママの手を取り、愛のこもったふくろをもう片方の手に持ちました。二人は静かな通りを下りました。ここに、愛が必要な人がいるかもしれないと、バナッサは思いました。

しかし、歩きながらバナッサは顔をしかめました。通りにはだれもいませんでした!

「この道を行ってみましょう。」ママはバナッサを別の道に連れて行ってくれました。しかしまた、だれも外にいませんでした。

バナッサはため息をつきました。「どうしたらいい?」と、バナッサは聞きました。

「心の中でいってみたら?」ママが言いました。「助けられる人のもとへみちびいてくださるよう天のお父様をお願いするのよ。」

二人はもう一つの通りを下ると、バナッサは静かにこういりました。天のお父様、愛を必要としている人を見つけてくださるよう助けてください。

数分後、バナッサは小さな男の子が歩道を歩いているのを見ました。

バナッサはにっこりしました。「こんにちは」と、バナッサは男の子に言いました。「これをあなたにあげたいの。」バナッサはふくろを差し出しました。

最初、男の子はこんらんしているように見えました。

「大丈夫よ。受け取ってもいいわよ」と、ママはやさしく言いました。

男の子はゆっくりと手を伸ばしてふくろを受け取りました。大きな笑みが顔に広がりました。

「たくさんの愛をこめてあなたのために作ったのよ」と、バナッサは言いました。

その男の子が家に走ってもどるのを見て、バナッサはよろこびを感じました。バナッサは、男の子が天のお父様にとって特別であると知っていました。●



バナッサはどのように天のお父様の愛を分かち合いましたか。